



日野中学校だより



学校教育目標 「創造力豊かで、たくましい生徒の育成」

校訓 「進 取」

HP : <https://www.rmc.ne.jp/~hino-cyuugaku/>

令和3年 6月1日(火) 発行《No. 3》

合唱コンクールに向けて～日野の誇りを受け継ごう～

本校は特色ある教育活動として「合唱」に力を入れています。特に合唱コンクールには、毎年この時期に全精力を傾けての取組が行われ、「日野中学校の誇り」として受け継がれてきました。しかし、昨年度は残念ながらこのコロナ禍で中止となりました。今年度はわたむきホールが改装のため使用できませんが、学年単位で体育館で実施することになりました。

その取組に先立ち、5月11日(火)、「合唱のまち 日野」についての学習を行いました。

本校の卒業生で、音楽部の一員として活躍された南比都佐小学校校長の山本先生をお迎えして、日野の合唱の歴史をお話いただきました。



1971年、以前あった日野北中学校、日野東中学校、日野西中学校、3つの中学校が統合され、今の日野中学校になりました。3つの学校が統合した当時は、どこか生徒の間にギスギスした雰囲気があったようで、それを「合唱で何とかしよう」と呼びかけられたのが菱川きよみ先生です。3つの中学校が統合することで音楽部の部員も100人を超える時期もあり、いろんなコンクールに出場する中で、素晴らしい結果を収めることができた

そうです。校内の合唱コンクールも開催に二の足を踏んでいる中学校が多かったなか、いち早くその取組を始められ、学校づくりに大きな影響を与えたそうです。

その日野中学校を卒業した生徒や合唱に興味がある人たちが参加する多くの合唱団が日野町にあり、年に一度すべての合唱団が集まる演奏会が町で持たれています。また、卒業生が指導する少年少女の合唱団もあり、「合唱のまち 日野」と呼ばれるまでになってきました。

また、日野中学校の校歌も大切な役割を果たしているそうです。團伊玖磨さんという名前を聞かれたことがあると思いますが、1964年の東京オリンピックの音楽や皆さんがよく知っている童謡「ぞうさん」などの作曲をされた方です。当時の校長先生が「日本で一番有名な作曲家は誰や」と菱川先生に尋ねられたところ、團さんの名前が上がり、校歌の作曲を依頼されたそうです。

このように「日本一の作曲家」がつくった校歌ということで、日野中学校の生徒の自慢になったことは間違いないと思います。

「合唱のまち 日野」と呼ばれるようになったことに、私たちの学校、日野中学校が大きな役割を果たしました。このことは、まさに本校の「誇り」だと思います。この「誇り」を受け継いでいきたいですね。

最後に、菱川先生が残された言葉です。



『日野町には、少年少女合唱団があって、中学校や高校には音楽部があって、混声合唱団があって、女声合唱団がいくつもある。そやから、上の学校に進んでも、卒業して就職しても歌い続けることができ、それぞれの場所で、仲間を作って、仲間の輪を広げることができる。』

私はな、この日野の町にそんな環境が作りたいたんや。それが私の夢なんや』

全国学力・学習状況調査・標準学力調査

5月27日(木)、全学年で学力・学習状況調査が行われました。

3年生は、全国一斉に実施される全国学力・学習状況調査に取り組みました。この調査は、生徒個人を評価するものではなく、生徒の学力や学習状況を把握することにより、授業等をよりよく改善し、指導を充実させることを目的に行われます。過去、東日本大震災や昨年はコロナ禍で実施が見送られた年はありませんでしたが、毎年、全国で実施されてきました。



今年度は、国語、数学の学力状況を知るためのテストと学習状況を知るための生徒質問紙(アンケート調査)が実施されました。年によっては、理科や英語の学力テストも実施されます。

解答は、マークシート形式の問題と記述式の問題があり、国語の記述問題については書く量も多く、しっかりかけている生徒と白紙に近い生徒の差が如実に表れていました。また、数学については、数学の知識や計算力を問う問題もあるのですが、解答を導き出すための考え方、その過程を答える問題もあり、それらの問題に苦戦している生徒もいました。

いずれにせよ、これからの社会で必要とされる力がついているかを見るためのテストでもあり、学校の授業等がそれに対応して改善されているかが問われるテストになります。

結果をしっかり分析し、よりよい授業にしていきたいと思えます。



また、1、2年生でも前学年までの学力の状況を把握するために「標準学力調査」が実施されました。この取組は、町独自で実施しているもので、町内の小中学校で実施されています。その結果を分析し、町内の児童・生徒の学力状況の把握とそれをもとに町全体で学力向上の方策を検討していきます。

どちらの結果も、後日返却されますので、ご家庭でも確認をお願いします。

3年生進路説明会を開催しました

先月の末に1、2年生で家庭訪問を実施しました。ご多用の中ご協力いただきありがとうございました。3年生は、卒業式が、1、2年生の修了式より早いので、授業時間確保のために、家庭訪問を実施しませんでした。その時間を利用して、いくつかの高校から先生をお招きして進路説明会を開催しました。



直接高校の先生から各学校のことや学科の説明をしてもらうことで、進路選択・決定への意識が変わったのではないのでしょうか。

これから、いろいろな学校の体験入学、オープンスクールなどが案内されます。進路決定にあたっては「**自分で**」がキーワードになります。

「**自分で見て、聞いて、調べて、足を運んで**」最後には、「**自分で決める**」ことができるよう進路と向き合ってほしいものです。

春季総体、吹奏楽祭が開催されました

5月21日、22日に春季総体、吹奏楽祭が実施されました。新型コロナウイルス感染対策をしっかりと取った上での開催でした。また、例年になく早い梅雨入りで、天候も不安定で、いくつかの競技で日程の順延などもありましたが、大過なく終了することができました。

〔主な結果〕

バスケットボール女子 ゾーン第1位 県ベスト4の対戦となった強化練習会で、第2位

野球 ゾーン1位

陸上(県大会) 男子共通三段跳び 第1位

どの部も3年生にとっては最後の大会となる夏季総体に向けて、新たな目標を持つことのできるよい機会になったと思います。



対話で kizuku まちづくり ～町長との懇談～

5月14日(金)、堀江町長、安田教育長ほか町職員の方が来校され、本校生徒会本部役員と懇談会が持たれました。

町長の持つ町づくりビジョンに中学生の考えを取り入れたということで開催されたものです。

まず初めに、生徒会役員一人ひとりが日野町の課題についての自分の考えを発表しました。人口減少の課題や町の魅力、交通の不便さなどについて思うことを率直に話していました。

それについて、町長や教育長がコメントされ、町職員の方からも今の町の取組について話がありました。通学路の危険箇所が話題に上り、「多くの生徒が危ない思いをしている」とか「こけたことがある」などの状態を町長に知ってもらえたことで、すぐに改善されそうです。

日野町の未来を「築く」中学生の言葉に、町長をはじめ参加された町の皆さんが改めて「気づく」ことができたことがあったようです。

これからも総合学習の時間に「ふるさと 日野」の学習を進め、地域の一員としての自覚を持つとともに、よりよいまちづくりのために中学生の視点で発信していきたいと思います。

日野町が「ずっと住み続けたいまち」になりますように。



除草作業をしていただきました

今年は、早くから梅雨入り。観測史上最速だそうです。

小雨が降る中で、今年も「ふるさと絆事業」(日野町地域学校協働活動推進事業 平成30年～)の一環として、滋賀県レイカディア大学同窓会の皆様が、除草作業・さつき選定作業を行ってくださいました。校舎まわりのサツキの間の草を丁寧に取り除き、さっぱりした状態にしていただきました。



この時期、気温も安定して、一雨ごとに、緑色(雑草)が増えています。普段から、用務員さんに除草作業をしていただいています。草刈機を使えるところはよいのですが、サツキの中などはどうしても手作業による除草が必要となります。多くの人の手と手間がかかる作業で、このように地域の方がご協力いただけることに感謝したいと思います。ありがとうございました。

日野町では、平成30年より地域学校協働活動推進事業「ふるさと絆事業」が各学校で行われており、多くの方に学校の施設整備や読書活動などで生徒の教育活動に関わっていただいています。今は支援をいただくことばかりで、地域の皆様にお返しできることは少ないのですが、今後、コミュニティスクールとしての取組が進む中で、学校が「地域の学校」として、生徒が「地域の一員」としてその役割を果たしていくことが必要になってきます。

地域の一員としてできること

少年センターの所長さんが「地域の方から通報があった」と来校されました。対応した生徒指導担当が反射的に「すみません」と言ったのですが、以下のような話でした。

5月25日(火)16時30分ごろ、松尾公園の東屋付近に弁当を食べた後のパックや菓子の袋などのゴミが散逸しており、それを見かねて年配の一人の男性が拾い集めておられた。

それを見た公園を利用していた日野中生2人が自発的にゴミ拾いに参加してきた。この中学生の行動を見た他の中学生、小学生も集まってきて一緒にゴミを拾いはじめ、すぐにきれいになった。集めたゴミは中学生が持ち帰って処分した。

今の若い子は否定的に発言される場合が多いが、この行動を見て町民として誇らしげに思った。

というものでした。

小学生のときは、地域の皆さんに見守られながら登校したり、どちらかというと「してもらおう」場面が多かったと思います。また、中学校でも「ふるさと絆事業」などで地域の皆さんにいろいろとお世話になり、「してもらおう」機会がたくさんあります。

「お世話になったこと」に対して、中学生として何ができるかを考えられるといいですね。今回の中学生の行動は、できることの一つだと思いました。